時事新報

時事新報は日本國中唯一の毎日刊行新聞紙なり

第二千三百九十四號
明治廿二年八月廿七日 火曜日
舊暦己丑八月二日 (乙亥)
日出午前五時十分 日入午後六時十四分
月出午前五時二十四分 月入午後六時五十五分
滿潮午前五時五十七分 午後六時十四分
(西暦一千八百八十九年)

時事新報

墺に與せんか露に與せんか

方今歐洲禍亂の原因たる可きものは獨、佛間の怨隙と東歐事件との二つにして獨、佛の間は早晩破裂を免れざる可しと雖も目下の處にては先づ以て無難なりと云はざるを得ず然るに東歐事件は多年結んで解けざるのみならず昨年來は事體頻りに切迫して動もすれば密雲將に雨ならんとするの兆なきにあらず蓋し東歐事件とは東歐諸強國がバルカン半嶋に對する關係にして強國中その關係の最も密なるものは墺、露の二國なりとす近著の倫敦エコノミストは半嶋諸國が右の二國に對する感情の如何に就き說をなして曰く露國はバルカン半嶋に於て墺國と勢力を爭ふに就き世人の未だ曾て知らざる一大便益を有するものと云ふ可し若しも露國にして其爭に打勝つ時は半嶋諸國の政府人民が兼てより希望する土地を割て之に與ふる事ならんなれども之に反して墺國は此事を爲す能はず蓋し彼のルーマニヤ、セルヴヰヤ、バルガリヤ及び希臘の人民は其土地の半を失ひ加ふるに久しく他國の壓抑に屈するが故に其舊領を回復せんとするの念一日も止む能はずして益々獨立の心を堅くし當時の國光を發揚せんとするの志あり即ち右の國々は數百年の間土耳其の壓制を受け殘虐の處置さへ少からざるを以て往昔全盛の當時を回想して之を追慕し之を恢復せんとするの念慮益々深からざるを得ずして實際と想像とを問はず苟くも此志を達するが爲めには如何なる犧牲をも供し如何なる危險をも顧みざる程の次第なれば若しも是等の諸國の爲めに其望を滿足せしめんとする保護者の現出するあらば諸國の人民は喜んで其好意を感佩するのみならん今夫れ露國は其土地の位置と甲兵の力とに依り自ら進んで其保護者たらんと期するものにして露國當局の人々は若しもバルカン半嶋の諸國が我に從屬するに於ては其舊領を回復せしむるも決して憂ふるに足らずと自ら信ずるものゝ如し例へばルーマニヤの人民は兼てより百五十萬口の同國人を有するトランシルヴアニヤ(匈牙利の一部)の土地を手に入れんと希望するを以て露國は戰勝の日に至り之を與ふる事を約束したり然るに墺國に於てはトランシルヴアニヤのルーマニヤ人は取も直さず其臣民にして且つ苟も國の一部を割て他に與ふ可らざるは勿論なれば斯の如き約束を爲すこと能はざるのみならず却て其人民に向て回復の志を思ひ止まらしむるの手段を講じ甚しきは之を目するに叛民を以てするとなきにあらず斯る事情は遂に以てルーマニヤ人中に露國崇拜の念を起さしめ墺國に與して露國に反對せんとする一派の人々の氣を挫くに過ぎざるのみ又彼のセルヴヰヤ人は常にセルヴヰヤ帝國隆盛の當時を追憶して止む能はず月の火曜日毎にコッソボに於て紀念祭を執行し其舊領なるボスニア、ヘーゼゴヴヰナ、ダルマシヤ及びマセドニヤ、バルガリヤの一部を回復せんとするの念慮なりと云ふ左れば露國にては若しもセルヴヰヤがモンテナグロのニコラス公子を其君主と仰ぎ露帝を助けて與にハプスバーク家に敵對さへするに於てはバルガリヤ一帶の地を除くの外、悉く之を與ふ可きことを約束したるに之に反して墺國は自らダルマシヤ、ボスニヤ、ヘーゼゴヴヰナ等の地を占有するが故に戰爭に依るの外苟くも之を授受する能はざるの事情あり又希臘の注文は非常に大なるものにして最後の形見として、コンスタンチノープルを所望する其外に先づ取敢へずマセドニヤの全州を望み殊に同地方の中にてもデスポトスダグルヒと稱する山脈以內の地は專領の特權を有するものと自認せり而して露國は無論之れに同意なれども墺國は則ち然る能はず蓋し墺國は希臘の所望する右の土地には毫も關係なしと雖もサロニカ港に垂涎して若しも事宜に依りマセドニヤの一半を占領することを得ば之に依て以て東洋貿易の道を開き其商賣の不振を醫せんとするの念あるや疑ふ可らずして而してボスニヤよりイヲアン海に達するの路、開くるときは爲めにマセドニヤを兩分し恰も鐵墻を設けて希臘を閉鎖しエピラス及びアルバニヤに向て其志を逞うすることと能はざらしむるに至る可し又最後にバルガリヤ人も亦デスポトスダグルヒ山脈に至るまでマセドニヤの地を所望する事なれども若しも墺國がこの所望に聽せんとするには土耳其と戰爭して全勝を占めたる後ならざるを得ず然るに露國は全半嶋中に充滿する敵愾の精神を利用するものにして此精神たる半は空想、半は愛國心に依て養成せられたるものなりと雖も然れども國中最大の勢力にして其向ふ所は露國と方向を與にするに在るものありバルカン半嶋諸國と露國との關係は前述の如くなるが故に墺國は更に其方向を轉じ半嶋諸國が獨立を好むの情に訴へて其歡心を得んと勉むるものゝ如し蓋し右諸國の人民は國土を回復するの一義は固より其望む所なれども永く獨立の體面を全うするの念も亦常に盛にして若しも露國に與するときは其援に依り土地の回復は疑なしと雖も獨立の一事に至りては聊か掛念なきにあらず露國の壓制狂暴は人のよく知る所にして假令へ暴力を以て壓抑するが如き事はなしとするも次第々々に浸漸して遂には其呑噬を被むるの虞なき能はず殊にルーマニヤ及びバルガリヤの二國は露國よりコンスタンチノープルに達するの路に當るが故にこの恐も一層甚しくして兩國の政府が其脆弱なるにも拘らず能く內亂の爲めに顚覆の患を免れて今日ある所以のものは畢竟其人民が外患の爲めに乘せらるゝ事を恐れ相結んで政府を維持するが爲めならんのみ墺國は即ち此事情を利用し其歡心を得んとするものにして墺帝フランシスヨセフ陛下は自ら半嶋諸國獨立の保護者を以て任じたるものゝ如し去る六月中帝は同國の國會議員を延見したる後ルーマニヤの事に關して此趣旨を演說し又帝の總理大臣カルノキー伯も其次日この旨を敷衍してセルヴヰヤの如き小國さへも其獨立の精神は甚だ堅固なればこの一精神は以て露兵百萬の蹂躪を防ぐに足る可しと述べたり又帝の演說中バルガリヤに向て非常の好意を表しフェルヂナンド公の地位を固む可き旨を說き希臘に對しても亦同樣の意を表したり聞く所に據ればカルノキー伯は更に之に附言して苟も墺國にして斯くあらん內は諸國の獨立も必ず確かなる可く將た諸國の中にて假令へ內亂等の騷動あるも其事にして國の獨立に妨げなき限りは墺國は決して之に干涉することを爲さゞる可しと演べたるよし但し半嶋諸國は墺國の露國に比して強弱同日の談にあらざることを信ずるが故に斯る言辭の奬勵は以て露國の前約を輕重するに足るや否や疑はしき事なれども兎に角に墺帝及び其宰相の演說は若しも露國が暴力を以て半嶋諸國に加ふるの日には力を以て之を保護す可しとの前約を意味するものありと云はざるを得ず然りと雖も目下露國に於ても斯る亂暴の企あらざることは其御用新聞が墺帝の演說を評したる語氣に徵するも明白なる處なれば諸國の危難は却て蕭牆の內にありて而も甚だ危險なる性質あるものゝ如し若しも彼のセルヴヰヤの祭日に當り其熱情を挑發するものあるときは同國人は直に蜂起して今の弱王を國都より放逐し更に露國に因緣ある公子を迎へて之を立て以て其舊版圖を回復するの計に躊躇せざる可し此場合に臨みて墺國は如何にす可きや墺帝も既に斯る明白の宣言をなしたる上は何の面目ありてかオメ〳〵バルカン半嶋が自ら露國の從屬に歸するを座視する事を得べけんや如何となれば此事たる獨り墺帝の恥辱となるのみならず半嶋諸國の人民をして墺國は到底露國に抗すること能はざるものなりとの觀念を起さしむるものなればなり左れば目下東歐の諸國にて何れも恐怖の情を催ほし其政府をして頻りに兵備を爲さしむるものは是等の危難の到底免かる可らざるを知るが故ならんのみ

雜報

○愛蘭借地人の同盟規約　先頃の紙上に愛蘭(アイルランド)の諸名士が新に借地人保護同盟會を組織する事を記載したるが愛蘭出身の國會議員は去月二十二日に集會を催して借地人保護同盟會のことに付て評議し十四條の規約を定めたり今其要領を擧ぐれば第一、愛蘭借地人保護同盟會は今日地主の連合に依て攻擊せられ又は劫迫せられたる愛蘭借地人の權利を維持し且借地人が團結して自分等の借地に於て正當の利益を保護する爲に組織するものなり第二、同盟會の目的は法外なる借地料を徵集し其他種々の手段を以て借地人の安全を害するの慣習ある地主の連合を正當の手段に依て妨げんとする者なり第三、此目的を達する爲に愛蘭紳士の借地人は貧富の度に應じ相當の資金を寄附すべし云々等にてラッセル氏を始め有名なる代言人も之を贊成したるを以て愛蘭事務大臣バルフォーア氏に從へる代言人等が法律を以て之を禁止せんとするも到底其目的を達する能はざるべしと云へり

○久留米士族の建白　這回久留米市會に於て市稅徵收の法を家屋建坪の廣狹に據りて定むる事に議決したるより同市の士族は頗る不平を唱へ其徵稅法の宜きを得ざる旨を其筋へ建白せんと言ひ居る由なるが今其理由なりと云ふを聞くに元來士族の家屋は大抵昔の儘なれば他に比して廣大なるが故之を以て課稅の標準とせんには士族の迷惑此上もなきことなり何んとなれば今日斯る廣き家屋を要する譯にあらざるも去りとて之れを取毀つには其れ相應の入費も掛る事故無用とは知りつゝも共儘になし置
共建坪の廣狹を以
徵稅するは殊に不

○天津の近信　朝
鮮の紙類を天津に
を天津道台に請求
ば內地品同樣內地
(尤も海關稅は外國
使に訴へ公使より
台の答の通りとの
々に附し置くべき
デンニー氏は入
最早念を朝鮮政府
あらんと云ふもの
頗る穩かなるが如
國事務官と朝鮮政
小使が朝鮮の或る
りは朝鮮政府の手
は又拒みて渡さす
心頗る激昂せり云

○緬甸の前王　先
せられたる緬甸の
事を思ひ感慨禁す
ロンボに出で夫よ
ありたりと錫蘭新

○電信技術見習生
技生の外に今度則
るといふ

○富士山の暴れ
にて登山なりがた

○工夫の即死
梯間のバラスト運
せし際線路にバラ
て汽鑵車に觸れ

米國の人情
第五　娘の
米人某曾て國內を
に車中に男女二人
の老人にて元氣
の之に伴ふたる
昨、丹華の
捻として戀情を
物言ひ替す機會
と跡を尾けて寢
人の車を下るに
已れも同じ旅館
か多分重父と
宿帳の來るを待
と記載しあって
が親しく予に物
決婦を讃嘆した
(38)とすべきを
姉となさず十
るもの二百五十
觀せたる顧客
場合に於ても
し之を綴りたる